

三、マツカハコシクヒ *Ips proximus* Eichh. で、軀長三・〇、耗内外、全軀黒褐色を呈してゐる。

四、マツシラホシザウムシ *Cryptorhynchus insidiosus* Roel. で、軀長六・〇、内外、全軀灰黒褐色を呈し翅鞘上に二個の鈍白点紋を有するもので、當時被害痕跡を存すのみであつた。

五、マツノキボシザウムシ *Pissodes nitidus* Roel. で、只幼虫を見たのみ、頭部黄褐色、胸部鈍黄白色を呈してゐる。

以上數種を發見したるも、之等の發生害蟲のみに依て松の名木老樹が枯死するものとは思はれない。暴風雨、寒害、早害、其他の關係が大ひに影響して居ると信ずる。然し未だ研究日尙淺く基因が何れにあるやは今後の研究に俟つの外はない。害蟲の防除としては二硫化炭素、クロールピクリン等の適用に依れば或る程度までの防止の目的は達せらるゝと思惟するのである。

南支那産蟻數一二種 (第六版圖參照)

財團法人名和昆蟲研究所技師

太 田 幸 好

滿蒙の昆蟲相に就いては先般滿蒙學術調查團の採集調査があつたし、其の他の諸機關に於ても夫々調査が行はれて居るが、支那の昆蟲相に關しては目下事變處理中の爲め見るべきものが無い。依つて支那の昆蟲を知る事は容易でない。

扱て、友人石戸與市氏(南支那派遣鹽田部隊織田部隊本部付醫官)より昭和十五年三月、海南島の蟻類二種が筆者へ贈られて來た。僅か二種で種類に乏しいのは残念であつたが、本邦内地には産しない種類で支那産蟻類調査上好資料であるから、次にその概要を報じ一般諸彦の參考に供すると共に同氏の御厚

志に報ずる事とした。幸に諒とされたい。

(1) ハハリアリ (齒針蟻) (新稱)

Odontoponera transversa Smith Cat. Brit. Mus. 86 ♀

分類學上の位置

ハリアリ亞科 Poneriinae

ハリアリ群 Ponerii

ハリアリ屬 *Odontoponera*

屬名を以て新稱とした。

職蟻、體長一〇・〇耗、頭幅二・〇耗、頭長三・二耗

全體黒色にして上顎、頭楯の前縁齒、觸角、額片の基部、脛節、距は赤褐色である。褐色の微毛を全體に生じ、腹部にては多少密生し、頭楯、尾端に各數本の金色長毛を具へる。觸角は十二節より成りて長く、額脊の前方は相寄る。頭楯の中央は圓形を呈し、上顎齒はよく發達して居る。頭部は長隨圓形にして後頭縁は稍々彎入し兩側は角狀を呈する。頭部全面に著しき斜皺刻を有し、胸部には横皺を具ふるが、頭部のそれよりも粗である。胸部の後方には齒狀突起を有し、腹柄節は一節より成り鱗片狀を呈して少しく前方に彎曲する。尾針は上方に彎曲して居る。

本種の原因地はシンガポールである。

本種の習性その他に就いては今記載の根據を有して居ないが、昭和十五年六月八日附石戸氏の書信中には「……こちらは此の頃よく夕立が訪れ、所謂雨期なのでせうか濕熱で惱まされます。蟻は極めて多く露營も迂濶に出來ません。……」とあつたが、原始的なハリアリ亞科に屬する蟻は概して毒刺を備へて人體を刺すから、本種も毒針を以て加害し且つ鋭利な口器をも使つて皇軍將士を惱まして居るのでは

あるまいか。

(2) シリアゲアリの一種

Crematogaster sp.

分類學上の位置

フタブシアリ亞科 *Myrmicinae*

シリアゲアリ群 *Crematogasterini*

シリアゲアリ屬 *Crematogaster*

職蟻、體長三・五〇耗、頭幅一・一五耗、頭長一・〇〇耗

體は暗褐色にして上顎齒、頭楯の前緣齒、額脊間、頭部、觸角の柄節、腿節、脛節、跗節の末端節、前伸腹節の齒狀突起、腹部は黒褐色を呈する。

全體に光澤を有し、頭部・胸部に縱皺を具へ、腹部は平滑である。

全體に淡褐色の微毛を生じ、頭部・觸角の柄節、腹部の脊面には多少密生し、頭楯、中胸脊板、尾部には數本の長毛を生ずる。

頭部は球形にして後頭緣は僅かに彎入する。小楯板は狭く凹陥し、前伸腹節の兩側には鋭き齒狀突起があつて後方に向ふ。腹柄節は二個より成り第一節は扁平狀を呈する。腹部は四角形に近く各腹節の後緣は次節の前緣よりも幅廣い。尾端は鋭く上へ突出する。

本種も他のシリアゲアリ類に於ける如く、鋭き尾端より激劇性の液を分泌して人體を害する事と思はれる。

トビイロシリアゲアリ *Crematogaster laboriosa* Smith は本種に酷似して居るが、之は前伸腹節の齒狀突起はより短かく、小楯板はよく太くして幅廣く、各腹節の後緣は次節の前緣と殆んど同じ幅にして體色

がより淡色なので明らかに區別する。

第六圖版説明

ハハリアリ 1、職蟻 2、尾端側面 3、頭部正面 シリアゲアリノ一種 4、
職蟻 5、尾端側面 6、腹柄節側面

米穀増産にあたり二化螟蟲防除の重要性

茨城縣立鹿島農學校教諭

重原慶遠

(一)

今や我國はあらゆる部門を一丸として聖戰目的を達成し、新東亞建設に向つて邁進して居る事はあらためて此處に述べる迄も無い事である。彼の第一次歐洲大戰に於てドイツがあれ程戦つて居りながらついに敗れたのは、國內に於ける物資の缺乏就中食糧の缺乏が最大の原因であつたと云われて居るのを考へる時、事變下の現在國民の主要食糧軍需並びに貿易關係の重要作物の増産を圖り、以つて軍需、民需の充足に、外貨獲得に萬難を排して進んでゐる農業界の使命が如何に重大なものであるかと云ふ事は言をまたぬのである。

平時に於ても重要な事であるが、まして今日の如く事變下にあつては國民の主要食物たる米、麥生産の現状維持増産と云ふ事こそ、實に重大なる問題となつて來るのである。之れは食糧封鎖こそ最も殘忍なる戰爭行爲であると稱せられてゐるのを考へてもよくうなづける點である。然るに今日迄の實例に依ると、一度戦が起るや國內の殷賑産業の勃興に依り、食糧の消費が急激に多くなると共に、戰場への移出もありて米穀は急激に減少するのである。それに加へて現在に於ては生産に必要な肥料を初めとし